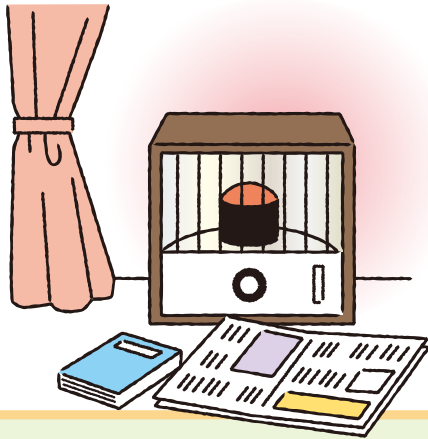


1 身につけよう!火災を出さない生活習慣

放火をのぞけば、ほとんどの火災は火気の取り扱いの不注意や不始末などによる人災です。
つまり、ふだんの心がけしだいで十分に防げるものです。
生活習慣を見直して火災を出さない暮らしを心がけましょう。

1 ストープの周辺に 燃えやすいものを 置かない

- カーテンや洗濯物に火が燃え移らないように。
- 給油は必ず火を消してから行いましょう。



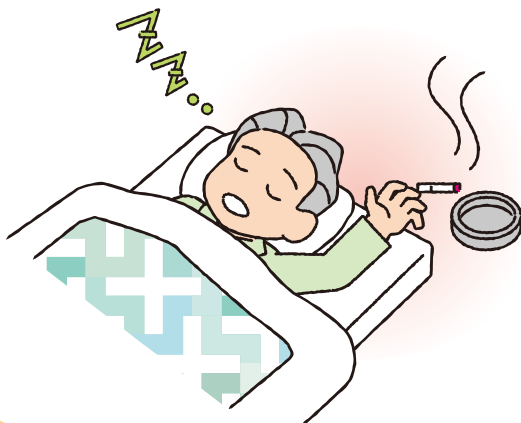
2 油料理のときは 火のそばを離れない

- 天ぷらやフライ料理のときは、火のそばを離れず、電話や来客のときは火を消しましょう。



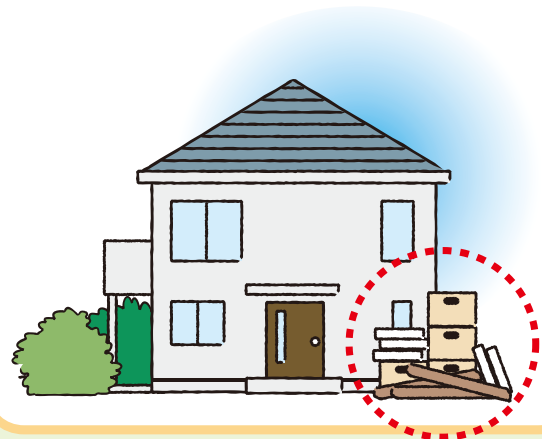
3 たばこの投げ捨て、 寝たばこはしない

- 火のついたたばこの投げ捨てや、寝たばこは厳禁。
- 灰皿には水を入れておきましょう。



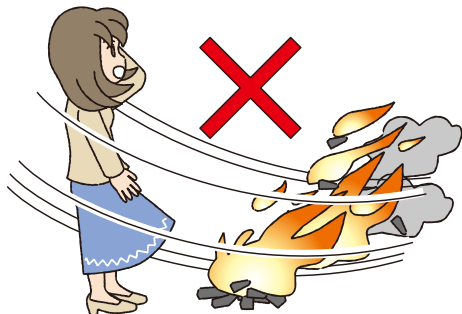
4 放火をさせない 環境づくりを

- 家の周りに燃えやすいものを置かないように。
- 物置や車庫にはカギをかけておきましょう。



5 強風の日にたき火をしない

- たき火をするときはあらかじめ消火用具を用意し、その場を離れない。子どもだけでは絶対にさせないように。
- 風がある日は中止しましょう。



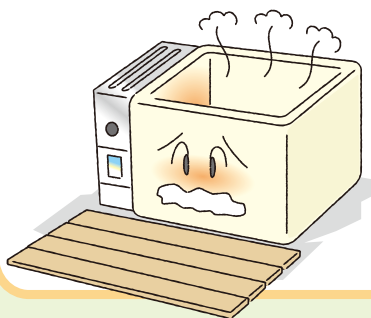
6 子どもの火遊びに注意する

- マッチやライターなどは子どもの手の届くところに置かないように。
- 日ごろから火の怖さや正しい使い方を教えておきましょう。



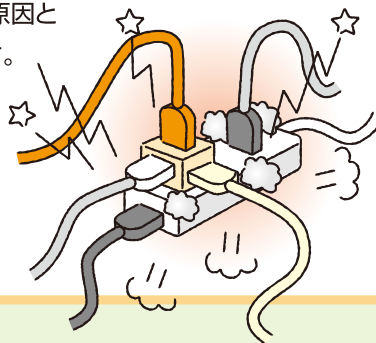
7 風呂の空だきをしない

- 点火のときは浴そうに十分な水があることを確かめてからにしましょう。



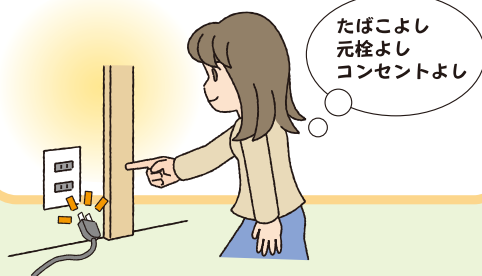
8 コンセントに気をつけて

- たこ足配線はしないように。
- 傷んだコードはすぐに修理・交換しましょう。
- コンセント付近にほこりがたまっていると、火災の原因となります。



9 お出かけ前、就寝前に「火の用心」

- ガスの元栓、コタツのコンセント、灰皿など、火の元をしっかりチェックする習慣づけをしましょう。



10 消火の備えを万全に

- 台所などに家庭用の消火器を設置し、使い方を覚えておきましょう。
- 地域の防災訓練にも積極的に参加しましょう。

